

# 月次県内経済

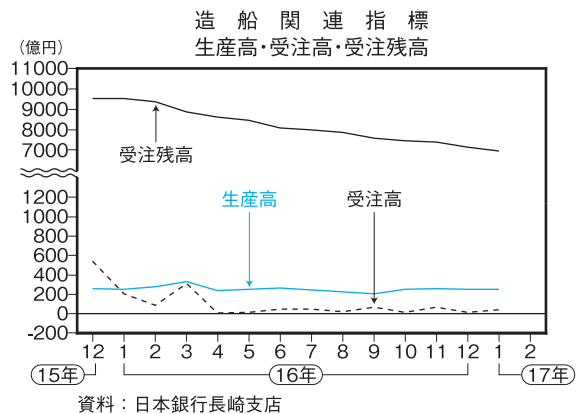
## 概況 横這い圏内の動き

〈3月〉生産面では大手・中堅造船は既往受注により概ね高めの操業を維持、重電機械も堅調、電子部品は持ち直しの方向。需要面では、公共工事請負金額は増勢、新設住宅着工戸数は持ち直し。個人消費では大型小売店販売額が弱含み、乗用車（登録者）販売台数は持ち直し。観光面は、主要施設の入場者数、宿泊者数とも持ち直しへ。雇用面では有効求人倍率が1.1倍台が続き、人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。4月入り後も生産・投資が底堅く、観光面は緩やかな持ち直し続く。

## 造船 大手・中堅、地場中小とも高めの操業を維持

**大手・中堅造船**では、新造需要は海運市況を反映して低調。生産面ではガス運搬船、省エネ船など高付加価値船を含めて受注残を確保していることもあり、高めの操業を維持している。

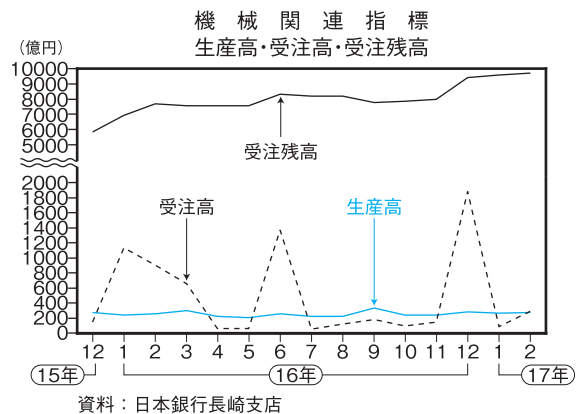
**地場中小造船**でも、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



## 機械 重電機械は堅調、電子部品は持ち直しの動きも

**重電機械**では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は新興国の需要を背景とした海外プラント関連に加え、国内でも一定の受注を確保。列車空調装置は受注持ち直しの傾向。

**電子部品**では、海外との競争など厳しい環境のなか、持ち直しの動きもみられる。



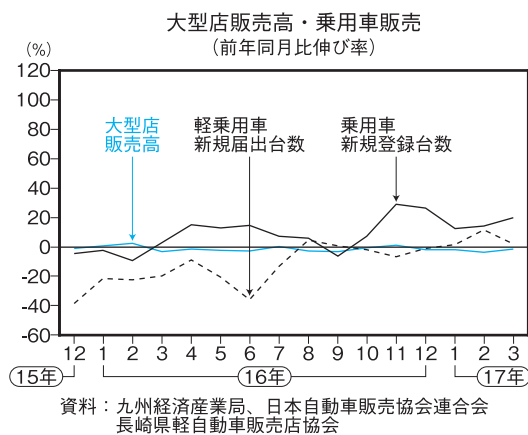
小売商況をみると、3月の県内大型小売店販売額は前年を下回る一方、乗用車販売は2桁増と回復傾向、サービス消費面の旅行取扱高は前年割れ。なお、4月度の大型小売店等の売上げは比較的堅調に推移。

3月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー34店、九州経済産業局調べ）は85億円、前年同月比1.6%減（同一店舗比較）となった。品目別では、飲食料品が0.6%増と堅調であったが、衣料品は主力の婦人服等が4.8%減となったほか、紳士服洋品13.4%減、身の回り品9.1%減となり、衣料品全体では7.5%減、また家庭用品等も6.2%減であった。気温が上がりきれず衣料品などの季節商材をはじめ全般的に低調であった。このうち、百貨店は、春物衣料品等が振るわなかった。スーパー・大型店等では、医薬品や化粧品等に動きはみられたものの、衣料品、飲食料品等の動きが鈍かった。一方、コンビニやドラッグストア等専門量販店は、堅調な売上が続いている。

乗用車販売では、3月の**新規登録台数**は3,148台、前年同月比19.9%増と6カ月連続のプラス。うち普通車は12.4%増の1,424台、小型車は26.9%増の1,724台。一方、軽自動車は2,596台、1.8%増（4月：8.5%増）となり、3カ月連続のプラス。

軽を含む総販売台数でも5,744台、11.0%増と6カ月連続の増加。

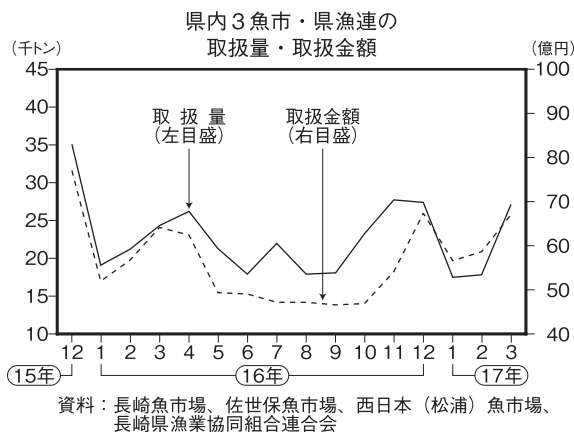
サービス消費面では、3月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が9.6%減と2カ月振りに前年割れ。うち国内旅行が4.2%減、海外は22.6%減となった。



水産 取扱量、金額ともに増加

3月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量が2.7万トン**、前年同月比11.5%増加し、**取扱金額も67億円**、同4.6%増加した。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比21.7%減少し、単価も10.0%下落、金額は29.5%減となった。一方、サバは数量が39.2%増加し、単価が4.9%下落したものの、金額は32.4%増加した。

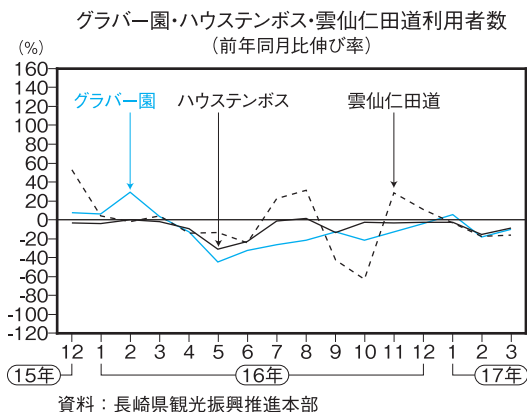


観光 主要施設の入場者数、宿泊客数ともに回復基調

3月の県内観光をみると、熊本地震の影響が長引くなか、主要観光施設の入場者数、主要宿泊施設の宿泊客数ともに前年を割り込んだものの、その減少幅はともに1桁台にとどまった。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は638千人、前年同月比5.9%減少した。地区別にみると、県南地区では長崎原爆資料館（7.1%増）と長崎歴史文化博物館（4.9%増）がともに増加したものの、グラバー園（10.3%減）は減少した。また、映画「沈黙－サイレンス－」の効果もあり、遠藤周作文学館が2.3倍と好調を維持、閉園となる県亜熱帯植物園には約8.6倍となる2万人を超える人々が訪れ、47年間の歴史に幕を閉じた。島原半島では島原城（7.1%減）と雲仙岳災害記念館（10.6%減）、雲仙仁田道（16.0%減）いずれも減少した。一方、県北地区は九十九島パールシーリゾート（0.5%増）が前年並みとなったものの、ハウステンボス（8.9%減）と平戸城（1.1%減）はともに減少した。また、離島地区でも万松院（22.9%増）が増加したものの、堂崎天主堂（3.5%減）と一支国博物館（3.5%減）は減少した。

**県内主要宿泊施設**（43社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比4.5%減と減少幅が1桁台にまで回復した。地区別でみると県北地区が0.1%減と前年並みまで回復し、県南地区も1桁台の減少幅（9.0%）に持ち直した。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は25千人、前年同月比26.7%減となったものの、小浜地区は14千人、同14.5%の2桁増となった。



## 公共工事

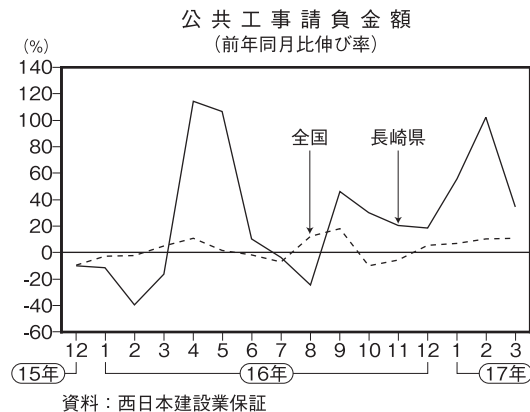
### 請負金額、7カ月連続の増加

3月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は384件、前年同月比3カ月連続の増加。**請負金額**は233億円、同34.4%増となり、7カ月連続で前年を上回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（25億円、21.2%増）、「県」（143億円、74.9%増）、「市・町」（59億円、73.2%増）いずれも前年を上回った。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、諫早地区（81億円、75.7%増）、長崎地区（66億円、39.4%増）、田平地区（12億円、40.1%増）など7地区。一方、県北地区（33億円、6.8%減）など3地区は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、一般県道諫早外環状線道路改良工事（3件、29億円）、長崎県立・大村市立一体型図書館及び大村市歴史資料館（仮称）新築工事（17億円）など。



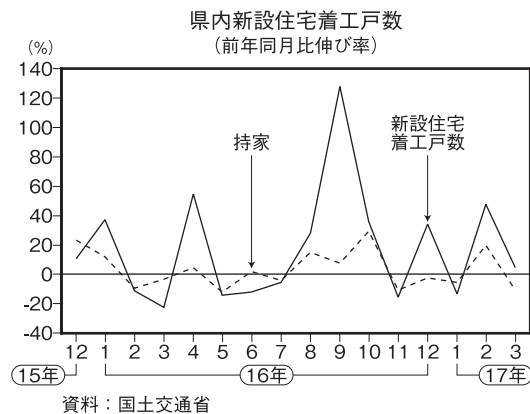
## 住宅建設

### 持ち直しの動き

3月の**新設住宅着工戸数**は550戸、前年同月比4.4%増であった。

利用区分別にみると、貸家（300戸、22.4%増）、分譲（31戸<うちマンション0戸>、55.0%増）が前年を上回り、持家（217戸、10.7%減）と給与（2戸、89.5%減）は前年実績を下回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、大村市（91戸、3.4%増）、諫早市（69戸、2倍増）、西彼杵郡（30戸、76.5%増）、雲仙市（19戸、26.7%増）などで増加。前年比減少となったのは長崎市（166戸、8.3%減）、佐世保市（128戸、9.2%減）など6市であった。



雇用 緩やかな改善傾向続く

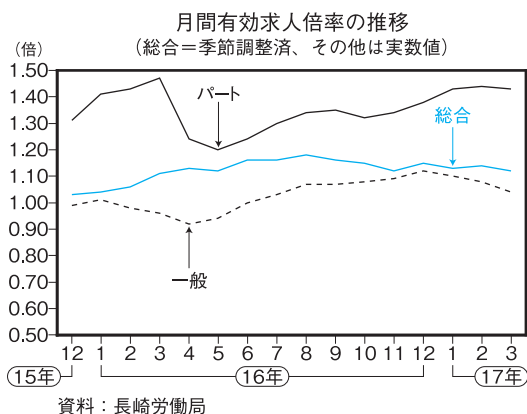
3月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.02ポイント下回る1.12倍。また、全国の有効求人倍率は前月を0.02ポイント上回る1.45倍となった。

**新規求人数**は10.8千人、前年同月比0.7%増となり、5カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が0.8%増と5カ月連続の増加、パート求人は0.6%増となり3カ月振りの増加。主な業種別にみると、飲食店、宿泊業（25.7%増）、運輸業（25.2%増）が2桁増、サービス業（5.5%増）、建設業（3.5%増）なども前年を上回り、教育・学習支援業（34.0%減）、情報通信業（9.9%減）などは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は7.2千人、前年同月比1.2%減と2カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が3.0%減、パート求職者が2.6%増となった。

また、**有効求人数**は29.9千人、前年同月比1.5%増と27カ月連続のプラス、**有効求職者数**は25.5千人、前年同月比2.0%減と2カ月連続の減少。

**就職件数**については、3.3千件、前年同月比7.4%減と3カ月振りの減少。また、**雇用保険受給者実人員**は4.5千人、前年同月比5.3%減となり50カ月連続で減少した。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産 倒産件数が最小、低水準続く

4月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比2件マイナスの2件にとどまり、71年の集計開始以来、最少となった。

一方、**負債総額**は10億を超える大型倒産が発生したことから、前年同月比4.6倍増の11億円となった。

倒産件数を業種別にみると、小売業・サービス業が各1件で、倒産原因は「販売不振」と「既往のシワ寄せ」。

